

入選

## 「大好きなお母さん」

静岡県 熱海市立第一小学校 五年 鈴木悠可

私の家は旅館をしています。なので、旅館にはやはりおかみさんが必要です。だから私のお母さんはおかみさんをしています。

その仕事はとても大変です。まず午前中は部屋の、花をいけたり、旅館の広間でやっている食事どころはときどきテレビでもとりあげらるゝことがあるので、時すぎぐらいだといそがしくて手伝いに行かなきゃなりません。午後は家事をやっています。私は、お母さんと買い物に行くときと帰り重い荷物を私が持つているとかならずお母さんは軽い荷物ととり変えてくれます。夜は、お客さんの所に行つてお話ししたり、はいぜんをしたり、あいさつをしに、お客さん全員の所に行きます。それにときどき板前さんをやつたりもしています。朝は兄の部活のために、早く起きてまず朝ごはんを作りお弁当も作ります。そのあと、着物を着てお客さんをお見送りします。このようにお母さんの一日は私たちのためになくなつてしまいます。

そこで私は夏休みの間、お皿洗いをすることにしました。やってみると、まず、フライパンや大きいボウルを洗う時、泡がたくさん飛んで来たり、その泡が洗つた物についてやりなおしたりこまめに洗つたりふいたりしないと洗つた物がどんどん落ちてきてしまつて大変です。それに家はみんなご飯の時間がばらばらだから、一かい洗つても二、三回洗わないと終わらないのでとても大変でした。

洗たく物を干してもみましました。お父さんの大きいズボンを干すのにとても苦せんしました。そのまま干すとせんたく物が地面についてよごれてしまうのでとてもこまりました。それに、まどを開けているのでクーラを使えなくて、とっても暑い中やっていました。私は冬は、洗たく物がぬれているから指がとつてもつめたいだるな。と思いました。こんなことをお母さんは毎日やっているんだな。と思いました。

私は手伝いをしてあらためてお母さんがすごいな。と思いました。これからはお母さんにめいわくをかけないように、家事を手伝っていききたいと思います。お母さん！毎日、毎日本当に、ありがとう！